北國新聞
第3種郵便物認可

金沢駅 武蔵 香林坊 片町
「都心軸」全てで上昇

路線価
3割は伸び率拡大

1日公表された今年1月1日時点の路線価で、金沢駅から武蔵、香林坊、片町までの都心軸に位置する30カ所全てで地価が上昇した。このうち3割に当たる9カ所で上昇率が前年より拡大した。一方、新型コロナウイルスの影響で観光客が激減し、ホテルや商業施設の入り込みが落ちており、不動産関係者からは「新たな投資はしばらく見込めない」との声が漏れた。

【1面に本記】

都心軸の全30カ所のうち、伸び率が10%を超えたのは南町交差点や本町1丁目の周辺など7カ所で、前年の6カ所から増えた。

前年に2桁（プラス11・7%）の伸び率を示した香林坊2丁目の香林坊ラモーダ周辺も引き続き上昇した。

金沢市中心部の都心軸では路線価が上昇した
＝金沢市香林坊2丁目

コロナで投資ブレーキ

石川県不動産鑑定士協会の河畑靖宏会長によると、金沢市中心部はホテルやマンションの開発を目的とした取引が一段落したものの、地方の主要都市の中では地価に割安感があり、安定した投資先としてみられているという。

ただ、新型コロナの感染拡大以降は、投資にブレーキがかかっているのが実情だ。

「新規の投資案件がなくなった。県外資本は総じて様子見をしている」と指摘するのは、エステック不動産投資顧問（金沢市）の武部勝社長だ。これまで県外のホテルなどから物件に関する問い合わせが寄せられていたが、新型コロナの感染拡大以降は、引き合いがほとんどない状態という。

県宅地建物取引業協会の新谷健二会長は、まちなかの駐車場を開発予定地として物色する動きが春先までみられたが、足元ではぴたりと止まっているとし、「土地の取引自体が少ない。コロナが落ち着くまで厳しい」との見方を示す。

特にインバウンド（訪日外国人観光客）の入り込みが当面見込めず、ホテルや飲食店などの出店が止まり、地価は下落に転じる可能性が高いとみている。

真っ白な花と葉を開かせたハンゲショウ＝金沢駅西広場